



花崎北小学校だより

学校教育目標「かしこく やさしく たくましく」

令和5年度
2月号
児童数253名

「忘れる前に」

校長 藤井 真仁

まだまだ寒い日が続いていますが、暦の上ではもうすぐ春を迎えます。

まだまだわずかですが、校庭の草木の一部からも春を感じることができるようになってきました。

寒い中でも、子どもたちはとても元気です。

多くの児童が休み時間には校庭に出て、縄とびや鉄棒、サッカー、ドッジボールなどで体を動かしています。「見て、二重とびができるようになったよ」「こんなに高くボールを蹴れるよ」などと声をかけられたり、時々、一緒に遊んだりすることはとても楽しいです。

最近、だいぶ日が長くなってきました。日の長さからも春を感じます。12月の帰宅時には見られなかった美しい夕焼けや、富士山や浅間山のはっきりと現れたシルエットを遠くに望みながら、今は帰路に就いています。

さて、元日に発生した能登半島地震から1か月が経ちましたが、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げるとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

「天災は忘れた頃にやって来る」と言われますが、近年は「忘れる前に」「忘れる間もなく」やってきているように感じます。地震はもとより、台風や集中豪雨、豪雪など毎年のように大きな被害が発生しています。

市では、災害に備えた様々な取組を行っています。その1つとして、本校は、震災時・水害時の避難場所となっております。実際に、「東日本大震災の時には体育館が避難所となった」と地域の方から伺いました。

先日、職員一人一人が、避難経路や施設設備についてあらためて確認したところでした。起こった災害を忘れる前に、今できることを迅速に行ってまいります。引き続き「安心・安全な学校づくり」を推進します。



北門脇に設置された看板

本物に触れる

先日、綿の木を地域の方からいただきました。幹の太さ、木の高さに驚きました。

20年以上前に私も栽培していましたが、教室のベランダでは、こんなに大きくなりませんでした。

教科書にも実は、綿が登場しています。

1年生の国語「たぬきの糸車」の授業では、子どもたちが本物の綿の木に触れながら、学習が展開していました。



「綿の木」
綿の木から取れた綿（木綿）は、つむがれて糸になり、その糸からTシャツや靴下、タオルなどが作られます。また、化粧品や医療で使われるコットン（脱脂綿）にもなります。
国語「たぬきの糸車」の中で、たぬきが「キーカラカラ キークルクル」と綿から糸をつむいでいました。

玄関に展示中